

発電所の設置動向

昨今、目覚ましい勢いで木質バイオマス発電事業計画が立ち上がっている。中部電力子会社の中部プラントサービスや早稲田環境研究所、住友商事、このたび計画を明らかにした大手新電力会社エナリスなど、幅広い業種が統々と参入を決めた。

全国の計画総数は、70件ほど。実際に発電を行っている業者は、燃料の収集範囲が50キロ以内と推奨される木質バイオマス発電所（5000キロワット規模）は、木質資源の需給バランスを考えると

2カ所以上 計画は1道12県

1県につき2カ所ほどの設置が望ましい」とした。当然、都市部や山林面積が乏しい地域は除く。2カ所以上の計画

を立ち上げている地域は、▽北海道▽岩手県▽長野県▽静岡県▽三重県▽兵庫県▽島根県▽広島県▽高知県▽熊本県▽大分県▽宮城県▽鹿児島県の1道12県で、全く計画されていないのは1都1府12県（当社調べ）となっている。

採算がとれる規模は出力5000キロワット以上とされている中、5000キロワット以下の計画は約5カ所にとどまる。最新の計画・エナリスがその1つだ。木質発電を中核に据え、余熱利用でウナギ養殖とといった派生事業を手掛けるなど、小規模発電でも地域還元効果が期待できる同発電事業を今後も注目していきたい。